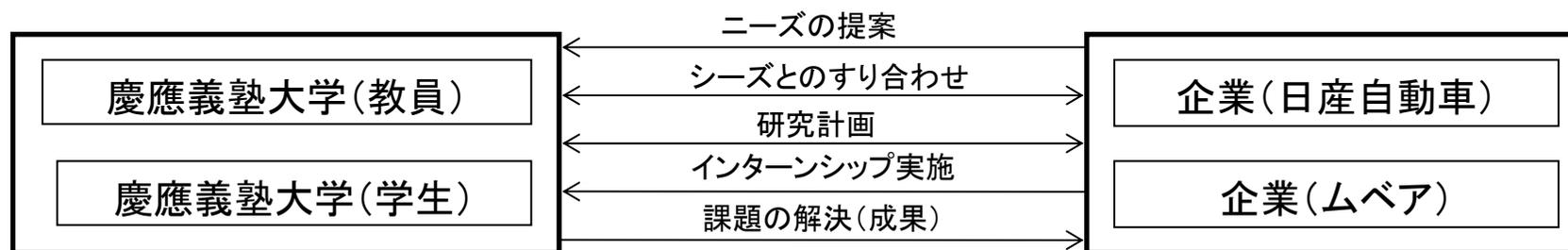
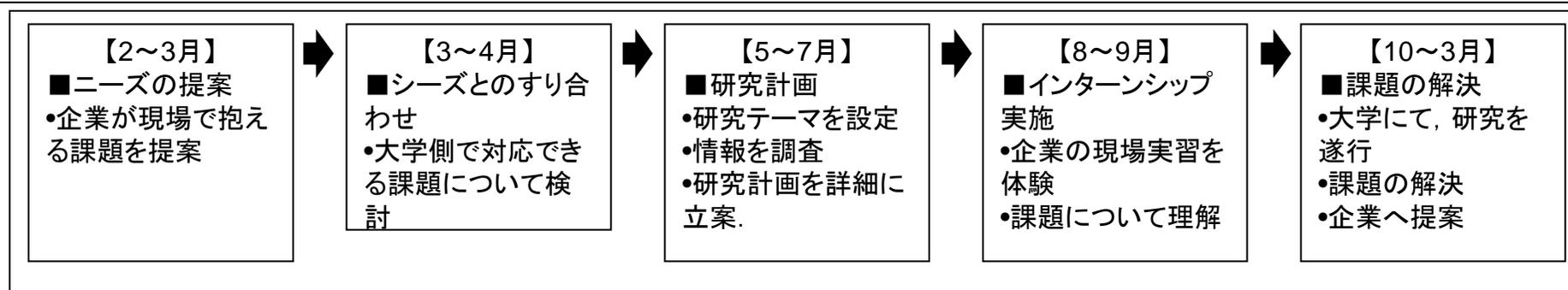


# 慶應義塾大学

## 取組名称: 共同研究型インターンシッププログラム

### 【取組概要】

本事業では、従来の大学院科目“学外特別研修”を発展させ、“修士論文研究”と結びつけることにより、高度な研究技術者を実践的に育成する共同研究型インターンシップ制度を新たに開発する。学生は、担当教員と企業現場の密な連携の下で、自らの専門分野が実社会の生産活動の中でどのような位置づけにあるかを理解し、自ら“研究ニーズの発掘”、“研究シーズの提案”を行うとともに、“産学共同研究”を中心的に推進する。



### 【成果等】

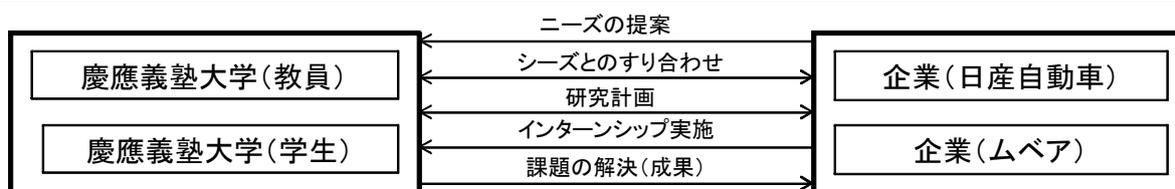
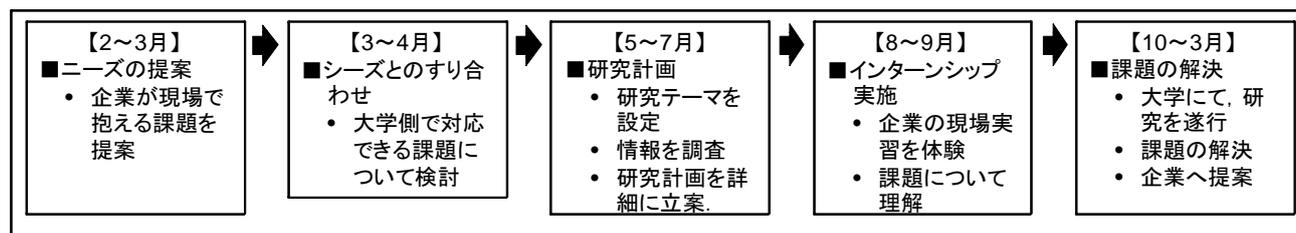
現場の作業に深く関わりながら実務就業、実践研究を体験することができたため、学生は真の意味で企業とその業務内容を理解する機会を得ることができた。大学における研究シーズと企業における研究ニーズのすり合わせにより、真の実践的共同研究テーマを構築できた。大学(指導教員)と企業(現場担当者)とが相互協力する体制の下で、実験課題に関して学生自らが「問題設定」、「問題解決の計画立案」、「計画の実行」を実践することにより、逞しい研究技術者を育成できた。指導教員、現場担当者を交えた議論を学生が中心になって執り行うプロセスの中で、プレゼンテーション、コミュニケーション、意見調整能力を育成できた。

**産学連携による実践型人材育成事業 ー長期インターンシップ・プログラム開発ー  
最終評価結果**

大 学 名	慶應義塾大学
教育プロジェクト名称	共同研究型インターンシップ・プログラム
事業責任者	理工学部 教授 青山英樹

**事業概要**

本事業では、従来の大学院科目“学外特別研修”を発展させ、“修士論文研究”と結びつけることにより、高度な研究技術者を実践的に育成する共同研究型インターンシップ制度を新たに開発する。学生は、担当教員と企業現場の密な連携の下で、自らの専門分野が実社会の生産活動の中でどのような位置づけにあるかを理解し、自ら“研究ニーズの発掘”、“研究シーズの提案”を行うとともに、“産学共同研究”を中心的に推進する。



**最終評価結果**

(総合評価) B: 所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる

**コメント**

《優れた点》

1. 企業のニーズは踏まえながらも、大学側、すなわち派遣院生の主体性を発揮できる形で展開していることは、履修者の育成上大きな長所を有すると判断できる。更に、対象企業やテーマを絞り込みを行い、密度濃く集中的に進行できた点も成果に繋がっていると判断する。

《改善を要する点》

1. 対象企業が二社に限定され、また、いずれも自動車関係企業のため、テーマが限定的なものとなり今後の拡大が難しいことと、特に事業の実施期間中に企業数、履修者数の増大を目指した試みや努力が見られなかった点は残念である。
2. 人材育成は継続が大切であり、本件を単にモデル的な位置に止めるのではなく、これを突破口として拡大を図って頂きたかったが、資金面で頓挫せざるを得ないとのことであり、残念なことである。